

平成 2 5 年度

北栄町教育委員会の事務に関する内部評価報告書

北栄町教育委員会

は じ め に

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行っているものであり、北栄町教育委員会が教育に関する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価したものである。

この教育委員会が行う内部点検及び評価は、平成20年度から行っており、今回で6年目となる。点検及び評価については、平成19年に制定した「北栄町教育ビジョン ～子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する～」における基本目標である「豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり」と「町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、夢が実現できる環境づくり」に基づく6つの施策の柱のもとに実施した北栄町教育行政評価委員会（外部評価）評価の42事業を含め、重点的な79事業を点検・評価したものである。この点検・評価による効果としては、重点的な実施事業を教育委員会自らが目標達成状況の確認と分析を行い、成果・効果、課題の洗い出し、次年度以降への事業に反映させるとともに、外部評価と内部評価それぞれの見解を比較・確認することで、より具体的、かつ、効果的に次年度以降の事業見直しに活かすこととするため取り入れたものである。なお、評価の方法については、「A：指標を大幅に達成」、「B：指標をいくらか超えて達成」、「C：指標どおり達成」、「D：指標を一部達成できなかった」、「E：指標をほぼまったく達成できなかった」の5段階で行った。また、今年度から新たに、1事業：1評価シートを作成し評価することとした。この取り組みのねらいは、事業計画の内容・方法等を記入することにより整理・明確化するとともに、事業の具体的な取り組みや数値に基づき評価し、事業完了時の実績や効果・課題及び事業改善方針の評価結果を明確化するものである。

これらに基づき、実施した事業の点検・評価を行ったが、79事業のうち1事業を「A」、9事業を「B」、60事業を「C」、9事業を「D」と評価し、全体としては「指標どおり達成」できたと評価した。

なお、教育委員会が行った評価の過程において教育委員から出された意見・要望は、「D」評価とした9事業の原因追究と課題分析とともに、次年度の事業展開に活かして行くこととしたところである。

また、北栄町教育行政評価委員会に実施していただいた点検評価の結果も踏まえ、教育委員会の事務事業の見直しを継続的にを行い、「北栄町教育ビジョン ～子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する～」の実現に向け、今後の事業に活かしていきたいと考えている。

北栄町教育委員会

子どもから高齢者まで 学びを通して夢を実現する

基本的な考え方

豊かな心と自ら考え行動する力を持ち、
自己実現ができる『人』

めざす人間像（町民像として）

- ・町の自然や歴史、文化、人に愛着と誇りを持つ
- ・命を尊重し、優しさや思いやりなど豊かな心を持つ
- ・生涯を通して、進んで学習し、自己実現を図る
- ・自らの食や健康に気をつけ、体力の増進や精神の高揚を図る

基本的な進め方

豊かな自然と優しい地域の中で、子どもがすくすくと育つ環境づくり

町民みんなが、人権を尊重して仲よく暮らせ、楽しく学び、
夢が実現できる環境づくり

乳幼児が安心して、
すくすく育つ家庭や地域

- ・就学前教育の充実と支援のためのシステムづくりに努めるとともに、親と子どもが共に育つ学習機会を充実します。
- ・子どもの人権を尊重し、子どもの安心・安全を保障する取り組みを推進します。

地域での活動や地域人材の活用で、
町の自然や歴史、文化、人を学び、
町に愛着を持つ子ども

- ・美しい自然の中で、子どもがのびのびと活動したり、地域の中で大人と共に学んだりすることを通して、自然や地域の文化、人の素晴らしさにふれあうことのできる環境づくりに努め、地域の教育力を高めます。

仲よく遊び、学び、
他人の気持ちを思いやる
心根を持つ子ども

- ・所・園・小・中の連携のもと、異年齢間の交流や活動を通して、子どもの仲間づくりや育ちを支援し、学校での人権教育を通して子どもが命の大切さを学びます。
- ・家庭や地域の中では、子どもの健全育成を推進する教育力の充実を図り、基本的な生き方を身につけさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合いながら、自立する子どもの育成をめざします。

子どもが意欲を持っていきいき学び、
基礎・基本を身につける学校教育

- 子どもの目が輝き、笑顔で学習や活動に取り組み、学ぶことの大切さや喜びを味わいながら基礎的・基本的な内容を身につけ、自ら学び・考え・行動する力を育成する学校教育を進めます。

人権を尊重する気風が社会に根付き、
豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町

- 「北栄町人権を尊重するまちづくり条例」に基づき、人権教育の取り組みを充実し、町民一人ひとりの基本的人権が尊重され、様々な活動や交流等をする中で人間性や社会性を磨き、幸せに暮らせる環境づくりに努めます。

学習やスポーツに積極的に参加し、文化や芸術に親しみ、
心身ともに健康で、自らの夢を実現させる人があふれる町

- ・生涯学習の推進体制を充実し、スポーツクラブや文化活動をする団体等の育成を図り、町民が生涯を通して楽しく学べ、スポーツや文化に親しむことができる環境づくりを推進します。また、町民一人ひとりが自らの健康管理をするため、食育や体力づくりを進めます。
- ・自らの夢を実現しようとする人を支援し、町民が誇りをもって暮らせる安心・安全な町をめざします。

平成25年度
重点施策

主要事業

就学前教育・教育の充実と保護者の
学習機会の提供

- 【教育総務課】
 - ・認定こども園・保育所における保育・教育の充実
 - ・子育て支援センター、放課後児童クラブなどによる支援
 - ・計画訪問による指導助言
- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
 - ・子育て学習講座の実施(こども園・保育所)

- 【図書館】
 - ・ブックスタート事業
 - ・おはなし会の開催(館内)
 - ・出前お話会の実施(子ども園・保育所・福祉施設など)

地域の素材を活かし、体験活動などを推進し
子どもの育ちを支援する取り組み

- 【教育総務課】
 - ・職場体験学習(ワクワク北栄・ワクワク大栄)
 - ・ゲストティーチャーの招聘(地域人材の活用)
 - ・転入教職員の町内めぐり
 - ・自治会等地域での学習活動支援事業
 - ・運動部活動推進事業

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
 - ・青少年劇場巡回公演の実施
 - ・アートスタート事業の活動支援・古代体験工房の実施
 - ・町民音楽祭(小中学生の参加)
 - ・中部地区少年少女のつどい
 - ・青少年育成北栄町民会議交付金事業(青少年街頭指導の実施・あいさつ運動の推進)
 - ・家庭教育12か条の推進
 - ・630運動の推進
 - ・地域における青少年活動調査(新規)
 - ・子ども会リーダーの育成(新規)
 - ・人権学習会の事業
- 【中央公民館】
 - ・青少年地域活動事業(長期休業中の体験活動)
- 【中央公民館 大栄分館】
 - ・放課後子ども教室(子どもほくえい塾)の実施

指導方法の工夫・改善の推進と基礎学力
の定着及び自ら学ぶ力の育成

- 【教育総務課】
 - ・少人数学級の推進・児童生徒学習交流事業(湖南省いじめサミットへの参加)
 - ・保育園小中の連携・町学校教育研究協議会・学びと指導の創造事業(北条小中)
 - ・特別支援教育の充実・特別支援教育補佐員の配置
 - ・レインボープラン(大栄小中・中央育英高校)・ドリームXI(北条小中)
 - ・同日公開参観日の実施
 - ・中学校での心の教室相談事業の実施
 - ・いじめ対策のためのQ-U実施・いじめに関する調査の実施
 - ・司書補佐員を配置・ICT教育活動支援員の配置・英語指導助手(ALT)の配置
 - ・「家庭学習の手引き」の作成・配布
 - ・図書館検索システムの活用

- 【教育総務課】
 - ・外国語教育事業の実施(小1~4年)
 - ・教育力向上事業
 - ・NRT・CRT標準学力検査の実施
 - ・サマースクール(夏休み中の勉強会)
 - ・問題データベースの活用
 - ・学力向上授業研究の実施(講師招聘)
 - ・大栄小「まなびの教室」の設置

実践に活きる研修の充実と
くらしやすい地域づくり

- 【教育総務課】
 - ・保育所、こども園、小・中学校における人権教育の推進
- 【生涯学習課 人権教育推進室】
 - ・人権教育講演会等啓発事業の開催(年2回)
 - ・人権の花運動の実施
 - ・人権を学ぶ会の開催
 - ・人権教育事業所研修の実施
 - ・人権教育推進指導員、地区推進員等の研修
 - ・隣保館における人権教育の実施

届ける講座の推進と自ら取り組む
スポーツ・文化活動

- 【生涯学習課 文化・スポーツ推進室】
 - ・民俗芸能の伝承事業・歴史文化探訪ウォークの開催・町民音楽祭の開催
 - ・歴史民俗資料館企画展示事業・文化財保護対策事業
 - ・巡回展示館の開催
 - ・国史跡由良台築山150年事業(フォトコンテスト・幕末ウォーク等)新規
 - ・すいか・ながいも健康マラソン大会の実施(第26回大会)
 - ・ウォーキングのまち北栄町推進事業
 - ・訪問型ニュースポーツ体験事業(おじゃまします!スポーツ推進委員です)
 - ・指定管理者北栄スポーツクラブによる各種スポーツ大会の実施及び施設管理(町民運動会、町駅伝、元旦マラソン&ウォーキング大会を含む)
 - ・東伯郡民体育大会主会場地に伴う取り組み強化(練習環境整備等)新規
 - ・スポーツ県外派遣費の補助
 - ・町スポーツ表彰の実施
 - ・社会教育関係団体活動費補助事業
 - ・社会教育講演会の開催(宝くじ文化講演)
 - ・生涯学習出前講座提供事業

- 【中央公民館】
 - ・公民館講座の充実(・民芸実習館活用講座・シニアクラブ・成人対象講座・青少年対象講座・自治会生涯学習部長研修など)
 - ・北栄文芸の編集発行・美術展の開催・公民館まつりの開催
 - ・北栄ゆら由良川くぐりの実施
 - ・文化団体連絡協議会の活動支援
 - ・指定管理者による大栄分館の管理及び各種事業の実施

- 【図書館】
 - ・図書館開館20周年記念事業(コンサート・講演等)新規
 - ・図書館まつりの開催
 - ・講座の開催(「源氏物語を読む」「福本和夫を識る」など)
 - ・図書館情報システムの活用

平成25年度北栄町教育行政評価(内部評価)

【 総 括 表 】

整理番号	評価事業名	最終評価	ページ番号
内1	認定こども園・保育所における保育・幼児教育に関する指導の実施	C	5
外内1	家庭の教育力アップ事業	B	6
外内2	ブックスタート事業	C	7
外内3	お話し会の開催	C	8
外内4	学校給食の地産地消の取り組み	C	9
外内5	小中学校における栄養職員による食育の実施	D	10
外内6	民間委託(一部業務)への円滑な移行	C	11
外内7	同日公開参観日	C	12
外内8	自治会等地域での学習活動支援事業	C	13
外内9	職場体験学習(ワクワク)	C	14
外内10	サマースクール(夏休み小学生勉強会)	C	15
外内11	ゲストティーチャー招聘(地域人材の活用)	C	16
内2	転入教職員の町内めぐり	C	17
内3	こどもエコクラブ活動(こども園・全小中学校)	C	18
内4	鳥取県版環境管理システム(TEAS)登録	C	19
外内12	歴史探訪ウオークの実施	C	20
内5	歴史民俗資料館展示事業	C	21
内6	巡回展示館の実施	D	22
内7	地域子ども教室(子どもほくえい塾)の実施	C	23
内8	中央公民館青少年対象講座	C	24
内9	国史跡由良台場150年事業	C	25
外内13	町学校教育研究協議会	C	26
外内14	レインボープラン(大栄小・中・中央育英高校)	C	27
外内15	ドリームプロジェクトX(北条小・中)	C	28
内10	全教育課程で実施	C	29
外内16	中学校での心の教室相談事業	C	30
外内17	いじめ対策のためのQ-U実施	C	31
外内18	いじめに関する調査	C	32
外内19	児童生徒交流事業(滋賀県湖南市との交流)	B	33
内11	PTA活動費(研修会)補助金	C	34
内12	青少年育成北栄町民会議交付金事業(街頭補導・あいさつ運動の推進)	B	35
外内20	少人数学級の推進	C	36
外内21	学びと指導の創造事業(北条小・中)	C	37
外内22	ICT教育活動支援員の配置	C	38
内13	講師招聘事業の実施	C	39
内14	CRT検査等による状況把握・分析の実施	C	40
内15	全国学力・学習状況調査・NRT検査による学力状況把握・分析の実施	B	41
内16	問題データベースの導入	C	42
内17	「家庭学習手引き」の作成・配布	C	43
外内23	大栄小「まなびの教室」の設置	C	44
外内24	大栄小「ことばの教室」の設置	C	45
内18	全小中学校 校務用パソコンの更新(年次更新)	C	46
内19	英語指導助手(ALT)の配置	C	47

内20	外国語教育事業の実施(1~4年)	C	48
内21	外国語教育指導員の配置	C	49
外内25	特別支援教育補佐員の配置	C	50
内22	学校における人権教育の推進	C	51
外内26	社会教育講演会事業	C	52
外内27	社会教育推進事業(生涯学習出前講座提供事業)	C	53
外内28	町民音楽祭開催	C	54
外内29	人権の花運動の実施	C	55
外内30	人権教育小地域懇談会の開催	C	56
外内31	小中学生の人権学習会の開催	C	57
外内32	人権教育講演会の開催	C	58
外内33	人権教育事業所研修の実施	C	59
外内34	人権教育推進指導員、地区推進員等の研修	D	60
内23	研修会、講座、教室等の開催(交流)	D	61
内24	集会・教室等の開催	D	62
内25	安全な遊び場の提供	D	63
内26	スポーツ県外派遣費補助金	C	64
内27	生徒派遣費補助金	C	65
内28	指定管理者北栄スポーツクラブによる各種スポーツ大会の実施	C	66~70
内29	すいか・ながいも健康マラソン大会の実施	B	71
内30	東伯郡民体育大会主会場地に伴う取り組み強化(練習環境整備等)	C	72
内31	民芸実習館活用講座	B	73
外内35	訪問型ニュースポーツ体験事業	A	74
外内36	ウォーキングのまち北栄町推進事業	D	75
内32	公民館講座の充実	C	76
外内37	北栄ゆら由良 川くだり	C	77
内33	北栄文芸の編集発刊	D	78
内34	美術展の開催	B	79
内35	公民館まつりの開催	B	80
内36	文化教室等の成果還元活動推進	C	81
内37	指定管理者まちづくりネットによる大栄分館の管理及び各種事業の実施	B	82
外内38	図書館まつりの開催	C	83
外内39	開館20周年記念事業(図書館コンサート)の開催	C	84
外内40	土曜講座	C	85
外内41	図書館情報システムの活用	C	86
外内42	ビデオ鑑賞会の開催	D	87

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

内部 評価用

		整理番号	1
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	認定こども園・保育所における保育・幼児教育に関する指導の実施		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 就学前教育の充実へのシステムづくり	
事業の目的・概要	【目的】 充実した就学前保育・教育を推進していく。 【概要】 各園(所)の保育・教育活動の現状や園経営上の成果と課題についてその実情を把握し、就学前保育・教育の充実に向けて支援する。		
事業の効果	【効果】 ○職員の資質向上につながる。(個として、集団として) ○保育教育内容の充実につながる。 ・ひとりひとりの子に十分な発達支援ができる。 ・職員、保護者、関係機関等が連携しながら、こどもの発達を保障する。		
具体的な取り組み	【町】 ○各園(所)が目標・研究テーマの設定を設け、具体的な取り組みを実施 ○園(所)内研修の実施 ○教育委員会による計画訪問 年2回 ○指導主事及び保育リーダーによる訪問指導等 【外部】 ○各種講演会、研修会に参加 ○県教委による要請訪問の実施 ○外部評価の導入(評議委員会設置・保護者アンケート等)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・教育委員会による計画訪問 年2回実施 ・指導主事及び保育リーダーによる訪問指導を実施 ・町幼児教育研究会(各部会・公開保育)への指導助言を実施 ・園内研修(支援会議等)の指導助言を実施 ・部長・副所長研修の企画・運営・指導助言を実施 ・就学指導を実施 ・園評価の実施と最終報告(評議委員会)
	成果・効果	・園内研修の充実を図ることにより、保育者一人ひとりの保育教育に対する意識の向上が見られた。 ・計画訪問等での教育委員会の指導が、日々の保育教育の内容に活かされた。
	課題	・引き続き各課との連携を密にし、子どもの成長・発達の保障を滑らかにつなげていける体制を構築する。
	改善方針	・取組のさらなる充実を図る
内部評価		最終評価 C 【意見等】 ・園内研修の充実を図ることにより、保育者一人ひとりの保育教育に対する意識の向上が見られた。 ・計画訪問等での教育委員会の指導が、日々の保育教育の内容に活かされている。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	1
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	家庭の教育力アップ事業		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 1-4 3-4
	具体的な目標	3 親と子どもがともに育つ教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 子ども達が、生きる力の基礎となる基本的な生活習慣を身につけ、心身ともにたくましく、健やかに育つことができるよう、保護者等に向けた学習機会を提供する。 【概要】 子育て学習講座の実施 「家庭教育12か条」「630運動」の推進		
事業の効果	【効果】 基本的な生活習慣の定着 親子のコミュニケーションを図る		
具体的な取り組み	子育て学習講座の実施(町内こども園・保育所(園)) ・ふりかえりシートの実施 4月を「家庭教育推進月間」とした「家庭教育12か条」「630運動」の啓発(チラシ配布、広報誌、HP、放送) ・告知放送での子どもたちによるあいさつ呼びかけ運動に併せた家庭教育に係る啓発の実施		

【最終評価】

事務局	事業実績	子育て学習講座の実施(町内こども園・保育所(園)) 4月を「家庭教育推進月間」とした「家庭教育12か条」「630運動」の啓発(チラシ配布、広報誌、HP、放送、児童・スポ少等による放送)
	成果・効果	基本的な生活習慣の定着(講座、振り返りと目標設定) 親子のコミュニケーションを図る 町全体で「家庭教育12か条」「630運動」を認識(子ども達による告知放送であいさつと併せ実施)
	課題	講座に不参加の保護者への働きかけ
	改善方針	より関心のある講座内容 みんなが参加する雰囲気づくり 不参加者への資料配付と呼びかけ
内部評価	最終評価	B 【意見等】・子育て学習講座に参加していない保護者からその理由を聴取し、子育て学習講座を継続するための施策を策定する必要がある。 ・ふりかえりシート配布：聞くことが主の講座から、行動につなぐきっかけづくりを行った。 ・子ども達による告知放送：子ども達の声であいさつに続き、メッセージを伝えることで、啓発をより素直に受け取り、より多くの方に知り、気づく機会の提供。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

外・内部 評価用

		整理番号	2
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	ブックスタート事業		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 6-8
	具体的な目標	3 親と子どもがともに育つ教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者が、絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる。 【概要】 町の健康推進課が行っている乳児検診時に、図書館司書と読みきかせボランティアが出向き、ブックスタート事業の趣旨を説明した後、赤ちゃんとその保護者に読みきかせの実際を行う。		
事業の効果	【効果】 ・目標一生後7ヶ月のすべての赤ちゃんに100%この事業が届けられること。これを機に、図書館利用につながる。 ・効果一事業を行うことで、絵本に無関心だったり図書館を利用したことがなかった保護者が図書館に来館され、利用者カードを作って本を借りられるようになった。また、おはなし会に参加されるようになった。		
具体的な取り組み	生後7ヶ月検診時に、一組一組の赤ちゃんと保護者に、絵本を開く時間の楽しさを体験してもらいながら、「赤ちゃん、すくすく幸せに育ってね」「地域みんなで子育てを応援していますよ」などのあたたかなメッセージを伝え、絵本を手渡す。また、おはなし会の開催や活動事業なども紹介し、利用促進を図る。その後、読みきかせボランティアによる絵本の読みきかせの実際を行う。保護者と一緒に、赤ちゃんのかわいい反応を見ながら、絵本の楽しさを体験してもらうことが、家庭でもそうした時間をもつきっかけになることを願う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	対象児の赤ちゃんと保護者にブックスタート事業の趣旨説明を行い、ブックスタートパックを手渡した(12月末現在で87組の親子へ)また、絵本の読み聞かせも行った。館内のおはなし会への参加も呼びかけた。	
	成果・効果	ブックスタートを機に、図書館へ来館される親子がある。赤ちゃんコーナーやおはなし会を知っていただくきっかけとなっている。	
	課題	この事業のフォローアップとして、館内で行っているおはなし会への参加を呼びかけたが、参加が伸びない。	
	改善方針	来年度に向けて、子育て支援センターへ出前おはなし会を実施する予定である。また、「年齢別のおすすめ本」のリストも作成していく。	
内部評価		最終評価	【意見等】・特になし
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A	=目標を大幅に達成できた	D	=目標を一部達成できなかった
B	=目標をいくらか超えて達成できた	E	=ほぼ全く達成できなかった
C	=目標どおり達成できた		

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

外・内部 評価用

		整理番号	3
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	お話し会の開催		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 6-8
	具体的な目標	3 親と子どもがともに育つ教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 小さい頃から絵本に親しみ、お話に集中することで、想像力や豊かな感性が芽生え、安定した心を育むことを目的に実施する。 【概要】 館内－毎週日曜日に開催。昼のコーナーで親子に絵本の読みきかせを行う。 館外－こども園や保育所、小学校に毎月1回読みきかせに出かける。		
事業の効果	【効果】 効果－ブックスタート事業の効果もあり、最近では赤ちゃんを連れた保護者が来館されるようになった。おはなし会後は、保護者が赤ちゃん用の絵本や自分用の本を借りて行かれ、利用促進にもつながっている。		
具体的な取り組み	・館内－図書館司書が、毎週日曜日午前10時30分から、来館者に放送等で声かけをし、おはなし会を開催。 ・児童コーナーの昼のスペースで、絵本の読み聞かせを行う。時間はおよそ30分程度。 ・館外－(大栗地区)大誠こども園、由良こども園、大谷保育所の3箇所に、毎月1回絵本の読み聞かせに出かけていく。 ・(北条地区)読み聞かせボランティア「つくしんぼ」が、毎月1回、北条こども園や北条小学校へ読み聞かせに出かけていく。		

【最終評価】

事務局	事業実績	今年度から毎週日曜日午後10時30分からに変更。赤ちゃんコーナーの昼のスペースで、年齢に合わせておはなし会を開催。また、8月には新企画として「ぬいぐるみのおとまり会」を開催。好評につき、年度末の3月に再度開催予定。	
	成果・効果	日時や回数を変更したこと、館内放送や呼びかけ等で、少しずつ参加者が増えつつある。	
	課題	特になし。	
	改善方針	今後も広報周知を徹底し、より多くの方に参加してもらうよう努力する。	
内部評価	最終評価	C	【意見等】・乳幼児期から本に親しむことは非常に子どもの成長大切なことと考える。日曜日の実施を継続し、より多くの方に参加してもらうよう周知方法を工夫すること。 ・赤ちゃん向けのおはなし会は、昨年まで隔週の水曜日に実施していたが、参加者が伸びなかったため、今年度からは赤ちゃん向け、幼児以上向けを問わず、毎週日曜日に開催するよう、日程と時間を変更した。また、広報周知を徹底し、より多く参加してもらうよう努力する。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	4
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	学校給食の地産地消の取り組み		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 学校給食等への地元農水産物の積極的な利用促進の推進により、子どもたちに郷土の農業、食の重要性に対する理解を深めさせ、ごはんを中心とした日本型食生活の普及を図るとともに、生産者の意欲向上と地産地消の推進を図る。 【概要】 地元生産者団体との地産地消検討会を毎月実施し、野菜や果物、加工品等の供給量について協議を行う。それらを学校給食の献立に生かすことで、地元産の食材を多く使うことができる。		
事業の効果	【効果】 ○地元産の食材を多く取り入れた献立を出すことで、子どもたちに旬や地域の産業について知らせることができる。その結果、自分たちが住んでいる地域の良さを知ることができ、ふるさとを愛する心を育てることができる。 ○食材の提供だけでなく、子どもたちとの交流給食などを行うことによって、食育の推進にもつながる。		
具体的な取り組み	○毎日…給食メッセージ(給食時放送原稿)で地元産食材の紹介 ○毎月…地産地消検討会(JA女性会・センター長・栄養士・調理員) ○学期ごと…学校給食用食材の生産地別使用状況調査報告 ○1月(学校給食週間)…交流給食(JA女性会)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・毎日の給食メッセージ(給食時放送原稿)で地元産食材の紹介、毎月の地産地消検討会は順調に実施できた。 ・1月24日～30日の給食週間には地元生産者と小学生との交流給食や、中央公民館での学校給食展では地元生産者団体の作品も展示して、生産者と児童・生徒の距離を縮めることができる。
	成果・効果	地元産の食材を多く取り入れた献立を出すことで、子どもたちに旬や地域の産業について知らせることができる。その結果、自分たちが住んでいる地域の良さを知ることができ、ふるさとを愛する心を育てることができ、「食」の大切さや感謝の気持ちを育めた。1学期は天候の関係で地元産・県内産の利用が減ったが2学期は増えるよう心がけた。
	課題	・地元生産者とも会合を持ち、野菜の規格を改めて共通認識したが、やはり天候に左右されやすい。センターも各園場の見学を計画していたが、時間がなくできなかった。 ・加工品の異物混入があった。地元生産者の高齢化に伴い、町内産加工品の確保が難しくなる。 ・発注ミス等がある。
	改善方針	・地元生産者には露地ものより、安定しているハウス栽培の作物で計画的に耕作してもらうようにする。 ・加工品の保管方法や衛生管理を徹底してもらう。 ・万が一異物混入が発生した場合は、原因解明と今後の改善策を明確にしてもらう。 ・発注ミスがないよう電話のみのやり取りではなくファクシミリを必ず使用する。
内部評価	最終評価	【意見等】
	C	地元産の食材を多く取り入れた献立を出すことで、子どもたちに旬や地域の産業について知らせることができた。 1学期は天候の関係で地元産・県内産の利用が昨年より減ったが2学期は優先するよう気をつけた結果、増加した。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	5
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	小中学校における栄養職員による食育の実施		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒に食に関する指導を行うことにより「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を家庭や地域と連携しつつ身に付けさせ、健全な食生活を実践することができる人間を育てることが大きな目的である。 【概要】 学校給食を生きた教材とし、給食を通して「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせる。学校との連携をはかり、全体計画を立てて指導を行う。		
事業の効果	【効果】 ○児童生徒が食に対して興味関心を持ち、食に関する正しい知識や選択する力を持つことができる。 ○計画的に指導を行うことで、児童生徒の健康や食に対する興味関心が高まり、残菜を減らすことができる。 ○朝食欠食率の低下につながる		
具体的な取り組み	○食に関する指導の全体計画を作成する ○給食訪問を行い、給食を教材として指導を行う(全クラス) ○学校と連携し、学級活動等で食に関する指導を行う ○試食会において保護者へ食育についての講話を行う ○献立表、給食だよりを通して家庭への食育を推進する		

【最終評価】

事務局	事業実績	給食たよりを毎月発行している。試食会の講和も依頼のあった学校にはすべて実施した。食育の指導を栄養士の所属校(北条小)は全学年実施済。こども園の保護者対象の講演会は実施済で、子どもたちへの食育指導は2月以降に実施する。毎月各学校の給食主任と献立検討会を実施して連携が取れ、学校への周知が徹底できた。
	成果・効果	・児童生徒が食に対して興味関心を持ち、食に関する正しい知識や選択する力を養う。 ・食育指導を行うことで、児童生徒の健康や食に対する興味関心が高まり、残菜を減らすことができた。 ・こども園は保護者に講演会を実施し、園児には2月に食育指導を行う予定である。
	課題	・食育指導にあまり出られなかった。
	改善方針	・各学校で食育指導が実施できるよう年間計画をたてる。できれば1校集中ではなく、曜日ごとに学校を決めて回るようにして、学校、センターとも「食育指導」を定着させたい。食育指導の後は、残菜が減る傾向があるなど指導の効果もあるので、今年度より回数を増やしたい。
内部評価	最終評価	【意見等】年度中途からセンターの栄養士加配職員が病休となり、一部、計画どおりの食育指導が出来なかった。
	D	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	6
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	民間委託（一部業務）への円滑な移行		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 食育の充実	
事業の目的・概要	【目的】・調理業務の委託の目的は、民間企業等の専門的な知識・技術を活用し、柔軟な勤務時間などによる業務効率の向上による経費節減の効果と、調理業務を委託することにより、従来事務職が行っていた、調理職員管理業務（賃金計算、休暇に伴う代替対応など）が削減される事による事務軽減で、事務職員、栄養士らが給食センター管理運営業務、食育の推進、アレルギー対応、献立内容の充実、安全・衛生管理の一層の推進を図る。 【概要】・町が献立の作成、食材の購入、調理の指示、調理物の検査を行い、調理作業、配付作業、洗浄・消毒・保管作業、清掃作業などを民間業者に委託する。		
事業の効果	【効果】◆食育 近年、児童・生徒の食生活においては、偏食、朝食欠食、偏った栄養摂取などによる食生活の乱れ、肥満傾向の増加などが指摘されている。これらの課題を解決するための食育が推進できる。 ◆アレルギー対応、献立内容の充実 学校給食においては、献立内容の充実、地産地消の推進による安全な食材の使用、近年増加傾向、多様化する食物アレルギーのある児童・生徒へのよりきめ細かな対応が推進できる。 ◆安全・衛生管理の徹底 センター長、学校栄養士により安全・衛生管理の徹底により安全で安心な給食の提供が図れる。 ◆給食業務全般のコスト削減・効率的運営 センター全体の管理運営の徹底、給食費徴収の促進が図れる。		
具体的な取り組み	《今後のスケジュール》 5月……………町議会全員協議会説明・学校給食会総会説明 6月……………6月議会・債務負担行為の計上・北条校区・大栄校区において保護者・PTA説明会開催 7月～8月…業者公募・説明会（業者選定方式の検討 公募型プロポーザル方式） 9月～10月…業者選定・契約 11月～ 3月…業者準備・業務引継ぎ 4月……………委託業務開始		

【最終評価】

事務局	事業実績	平成26年度から実施する調理業務等を民間委託するために公募方式で参加事業者を募る。募集要項を公示。プレゼン・選定委員会を経て、業者を選定し契約書を交わした。現在引継ぎ作業中。
	成果・効果	・食育の充実、アレルギー対応の充実、安全衛生管理の徹底、民間のノウハウを生かした、効率的な経営。 ・地産地消の推進。
	課題	・現地採用者の優先。検収体制の確立。異物混入の事故防止と対応。地元生産者団体の品質向上。 ・余裕のある調理設備管理を実施するために、こども園の稼働日を年間3日くらい休業としたい。
	改善方針	・業者の検収時間を午前中に限定するよう協議する。 ・こども園と協議し理解を得たい。
内部評価	最終評価	【意見等】保護者、関係者、議会等の説明了解を得てスケジュールどおり進行しており、 受託業者とは4月からの円滑な業務委託のために調整をしている。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	7
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	同日公開参観日		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	7 地域で育てる教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 町民に、子ども園での生活や遊び、学校での学習場面での様子を知っていただくため。 【概要】 年2回、町内の全保育所・こども園、小学校中学校を1日公開する。誰でも好きな時間に参観することができる。		
事業の効果	【効果】 ○自分の子どもの学習の様子だけでなく、学校全体の施設や子どもちの様子を見ることができる。 ○地域の専門家やゲストティーチャーを迎えての授業、小学校の外国語活動の様子など、子どもたちの様々な学びの様子を見ていただける。		
具体的な取り組み	○広報活動を行い、多くの町民に参観していただけるようにする。 ・広報「北栄」、TCC文字放送・データ放送、町告知放送、チラシ、町のホームページ等。チラシは、自治会長会、民生委員会でも配布し、広く呼びかける。 ○アンケートを実施してまとめ、結果をその後の園や所、学校の取り組みに活かす。		

【最終評価】

事務局	事業実績	同日公開参観日 公開施設：こども園・保育所・小学校・中学校 期日：(春)平成25年6月11日 (秋)平成25年10月11日 周知：町報、ホームページ、チラシ、ケーブル放送、町内放送
	成果・効果	年間参観者総数は、2,929人で、昨年をさらに上回った。また、参観者から「同日公開参観日は、いつ、どのクラスに行っても良いのでありがたい。」「学校に伺う機会が少ないが、今日はとても楽しかった。子どもたちの姿に元気をもらった。」などの声をいただいている。多くの方が参観し、所・園や学校の様子、様々な場面での子どもたちの様子を知る機会になっていると考える。
	課題	後期は、地域の方の参観者が減少した。より多くの地域の方に所・園や学校での子どもたちをでの様子を知り、見守っていただけるようにする。
	改善方針	同日公開参観日のチラシに、参観の視点を加える。 地域の人に学んだり、触れ合ったりする活動や学習も入れる。
内部評価	最終評価	C
	【意見等】	・後期参観日には地域の方の参加が減少する傾向にあるが、10月農繁期の実施を見直してはどうか。 ・家庭や地域と連携して子どもを育てていくためにも、今後も続けていく。 ・子どもから地域への発信をしていくことにより、より多くの地域の方の参観が得られるのではないか。 ・次年度以降は町民に参観して何を得てもらうか計画していく。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	8
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	自治会等地域での学習活動支援事業		
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目 2-1
	具体的な目標	7 地域で育てる教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 「地域の子どもたちは地域で育てる」環境づくりの推進と児童生徒が計画的な生活習慣や自ら取り組む学習姿勢の定着を図りながら地域への愛着心や社会性を身につける。 【概要】 自治会や地域の有志が、長期休業中に自治公民館等で地域の児童生徒を対象に実施する学習活動を消耗品等を支給することにより活動の運営を支援する。		
事業の効果	【効果】 ・地域の住民が、「地域の子どもたちを育てる」環境づくりが図れる。 ・児童生徒は、規則正しい生活習慣や自ら取り組む学習姿勢の定着が図れる。 ・児童生徒の地域への愛着心や社会性が身に着くとともに将来の地域貢献が期待できる。 ・町は、支援事業の継続・拡大に取り組み、町内全体への波及を効果を目指す。		
具体的な取り組み	・平成25年度：3団体支援(予定) ・支援方法：運営に係る消耗品等の支援⇒上限1万円の現物支給支援(年間1回限り) ・対象：長期休業中(夏休み、冬休み等)に自治会や地域有志が地域の小・中学校児童生徒を対象に行う学習活動 ・募集方法：自治会長・地域座談会・学校PTA・教育懇話会PR、ホームページ・町報掲載		

【最終評価】

事務局	事業実績	・夏休み期間中：4自治会へ支援 ※自治会長、学校PTA、町ホームページで周知 ・冬休み期間中：実施なし ・春休み実施希望者に対し受け入れ対応予定	
	成果・効果	・町内63自治会中4自治会を支援し、町内地域における学習活動の取り組みを推進した。 ・児童生徒の計画的な生活習慣の定着、自ら学習に取り組む姿勢、地域への愛着心を図った。 ・地域住民が地域の子どもたちを育てる環境づくりの推進を図った。	
	課題	・自治会における事業取り組みの継続 ・63自治会への事業の広がり ・実施検討者の事業における取組内容や期間、支援教材費等の不明確化による申請への迷い	
	改善方針	●「内容を見直して継続」 ・今年度事業を振り返り、支援事業への要件(内容、期間等)の明確化を図る。 ・支援した自治会への事業継続の仕掛けを図る。	
内部評価	最終評価	C	【意見等】 ・地域に有能な人材があると考えられる。これらの人材を活かすことは重要である。 ・地域で子どもを育てる環境づくりのきっかけづくりとなった。 ・子どもたちが地域や地域の方への愛着や感謝を感じることができた。 ・全町へ取り組みが広がるような内容検討が必要である。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	9
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	職場体験学習(ワクワク)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 職場体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ。また、そのことを今後の進路について考えることに役立てる。 【概要】 事業所において、4日または5日間の職場体験実習を行う。		
事業の効果	【効果】 ・体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことができる。 ・自分の能力や特性を発見・理解することにつながる。 ・社会の一員としての自覚をもち、社会の規律やマナーを学ぶことができる。		
具体的な取り組み	○事前指導 ・目的、心構え ・電話のかけ方 ・日誌、名札等 ○職場体験学習(4日または5日間) 北条中 7/2～7/5 大栄中 6/17～6/21 ○事後指導 ・まとめ		

【最終評価】

事務局	事業実績	職場体験学習を北条中 7/2～7/5(4日間)、大栄中 6/17～6/21(5日間)実施した。事前学習や事後の指導も行った。(目的、心構え、電話のかけ方、日誌や名札等の作成、お礼状の書き方)
	成果・効果	・体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学んだ。 ・自分の能力や特性を発見・理解することにつながった。 ・社会の一員としての自覚をもち、社会の規律やマナーを学んだ。
	課題	・受け入れ事業所を増やしていく必要がある。
	改善方針	・商工会との連携、保護者の協力を得て受け入れ事業所を増やしていく。 ・受け入れ側のメリットをPRしていく。
内部評価		最終評価 C 【意見等】 ・今後も事業を実施することにより生徒と社会人との違いを体験してほしい。 ・学校内では学べないことを体験を通して学ぶことができている。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	10
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	サマースクール(夏休み小学生勉強会)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 小学生が夏休みにおいて、学習習慣を持続させるとともに、講師のアドバイスや指導を受けることで学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望めるようにする。 【概要】 小学生の夏休み期間中の勉強会を1日あたり1時間30分、計10日間実施する。		
事業の効果	【効果】 ・学習習慣を持続させる。 ・学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望める。 ・地域の人と交流することができる。		
具体的な取り組み	対象：小学校児童 期日：7月24日～26日、7月30日～8月2日、8月6日～8日 計10日間 午前10時～11時30分 場所：北条地区は中央公民館大研修室、大栄地区は図書館研修室・AV室 講師：教職経験者、大学生 内容：各児童が学習教材を準備して学習をすすめ、質問があれば講師に訊く。 講師は、児童の質問に答えたり、様子を見て、適宜、助言や指導をしたりする。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・実施日数 9日(10日を予定していたが、8月1日は大雨のため中止) ・指導者11人の内1人は大学生 ・申し込みが、会場の定員をかなり上回ったため、学年ごとに参加日を指定して定員以下の人数で実施	
	成果・効果	・学習習慣を持続させることに役立った。 ・学習内容や学習方法を学び、意欲を持って学習に望むことにつながった。 ・地域の人と交流することができた。	
	課題	・申込者数が会場の定員をかなり上回った。	
	改善方針	・会場を確保し、申込者が全員参加できるようにする。	
内部評価	最終評価	C	【意見等】 ・参加児童数が前年の2倍強となり夏休みの子どもたちの学習意欲の向上が感じられる。今後の受け入れ態勢の充実検討が必要である。 ・児童生徒の参加希望をすべてかなえることができなかったのは、残念である。 ・地域との交流の輪をより広げる必要がある。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	11
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	ゲストティーチャー招聘(地域人材の活用)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 2-2 6-3
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 地域の人とかかわりあいながら、よりよく生きようとする態度を養う。 【概要】 地域の人材を招いての授業や総合的な学習等を行う。		
事業の効果	【効果】 ・身近な人の生き方に学ぶことができる。 ・地域の一員であるという自覚がうまれる。 ・地域の活動に参加しようという意欲につながる。		
具体的な取り組み	○中学校 ・運動部外部指導者(国10/10・県:1/2事業) 指導者研修1回、謝金:上限10万円(目安:38回分) ・社会人に学ぶ授業の講師 ○小学校 ・クラブ活動の指導 ・ほうじょう子ふれあいフェスティバル		

【最終評価】

事務局	事業実績	・中学校の運動部外部指導者による指導 大栗中バレーボール指導者:出産のため辞退(後任なし) ・小学校のゲストティーチャー招聘を実施 ・北条小のほうじょう子ふれあいフェスティバルについては、本年度より中止
	成果・効果	・身近な人の生き方に学ぶことができた。 ・地域の一員であるという自覚につながる体験ができた。 ・地域の活動に参加しようという意欲につながる体験ができた。
	課題	北条小のほうじょう子ふれあいフェスティバルが大きい事業であったが、本年度より実施しないことになった。日頃の道徳や特別活動にゲストティーチャーを招聘しており、これらの取組を来年度は指標に取り上げる必要がある。
	改善方針	北条小の指標を日頃の道徳や特別活動にゲストティーチャーを招聘することに関係するものにして、状況の把握・評価ができるようにする。
内部評価	最終評価	【意見等】・地域人材の活用と地域の人たちの交流ができた。事業を継続していく必要がある。 ・各学校において、計画に従って実施された。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	2
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	転入教職員の町内めぐり		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 地域文化とのふれあいを深める教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 ・北栄町のよさを知るとともに関心を持ち、北栄町を好きになるきっかけとする。 ・児童生徒が北栄町を好きになるために、授業や活動等を考える際の参考にする。 【概要】 転入職員が、児童生徒が生まれ育った北栄町の歴史・文化などに触れる		
事業の効果	【効果】 北栄町について興味関心を持つきっかけになる。 子どもや保護者と話すきっかけになる。 授業づくりや授業展開等の参考になる。		
具体的な取り組み	町のマイクロバスで、鳥取藩由良藩倉跡、由良台場跡、北条砂丘風力発電所、山菜の里、北条八幡宮、北条歴史民俗資料館を見学する。(史跡の案内は生涯学習課、「北条砂丘風力発電所」の説明は、地域整備課) また、車窓よりラッキョウ選果場、ラッキョウ畑、ブドウハウス、スプリングラー、青山剛昌ふるさと館、日置黙仙の墓所等についても説明する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	時期：4月初めに実施 対象：本町への転入教職員 内容：北栄町の歴史・文化などに触れる(鳥取藩由良藩倉跡、由良台場跡、北条砂丘風力発電所、山菜の里、北条八幡宮、北条歴史民俗資料館等)	
	成果・効果	参加者へのアンケートの結果、「北栄町について興味関心を持つきっかけになった」に対して、肯定的な回答が96%、「(家庭訪問、校外学習、行事で)町内に出かける際に役立った」に対し、肯定的な回答は84%。特に歴史民俗資料館が授業づくりに活用された。	
	課題	転入職員が多く、バスと公用車に分乗したため、車中の説明が全員にできなかった。アンケートの設問「授業づくりや授業展開等に参考にしたり利用したりした」への肯定的な回答が、35%で、横ばいである。	
	改善方針	移動自動車が2台以上になった場合、車中の説明が全員にできるように準備をする。参加者が、授業づくりに役立てられるよう、参考となる資料、町報等の紹介をする。	
内部評価	最終評価	C 【意見等】 転入教職員が北栄町を好きになるきっかけとなり、指導に役立てるために、来年度も継続する。(4月初旬実施)	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	3
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	こどもエコクラブ活動(こども園・全小中学校)		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 環境教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 こども園幼児、小学校児童、中学校生徒の発達段階に合わせた環境教育活動を実践し、生き物の大切さや生活環境、地球環境の保護についての意識を高める。 【概要】 幼児期から自然や生活、地球環境の保護について学習し、環境保護の重要性を認識したり、自ら美化活動に取り組む姿勢などを養う。		
事業の効果	【効果】 ・自然物に親しみを持ち、飼育・観察したりして生命を大切にすることを学ぶ。 ・空き缶やごみ拾いなど生活環境の中できれいにしようとする気持ちを高め、ともにエコ意識を高める。 ・割り箸やペットボトルキャップ・はがきの回収を通して物や自然を大切にすることを学ぶ。 ・グリーンカーテンの設置による教室の冷房効果の向上の実践や節電・節水の活動を通じて省エネと地球環境保護への意識の高揚と実践を図る。		
具体的な取り組み	●こども園：・自然物観察、生き物飼育。園外活動時の空き缶ごみ拾い。リサイクルセンター見学。廃材を利用した工作。レインキャッチを利用した菜園の水やり活動。 ●小学校：玄関前花壇やプランターの花の苗植え、水やりと草取り。使用済み割りばし・はがきの回収。リサイクル学習。坑内外の美化活動。グリーンカーテンの実践。 ●中学校：グリーンカーテンの設置。節電・節水の掲示等による呼び掛け活動。室温電波時計の設置。文化部による川の水質調査。玄関にソーライルミネーションライトの設置。プールにEM菌を投入し水質保全実施。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・自然に興味を持ち、生き物の世話や観察をし命の大切さを養った。 ・ごみの減量化やリサイクルの大切さを学んだ。 ・グリーンカーテンの設置など自ら環境保護に取り組む姿勢を養った。 ・自らが生活する学校やこども園施設の美化活動やリサイクル活動などに取り組み環境保全の意識を高めた。
	成果・効果	・自然や生き物に触れ合っ命の大切さを実感し、心をはぐくんだ。 ・リサイクルすることに関心を持ち資源ごみを分別したりするなどエコ意識が高まった。 ・グリーンカーテンの設置や節電・節水などの取り組みで学校全体が環境保護意識を高めた。
	課題	・活動の時間が足りなかった。 ・生徒主体の活動ができなかった。 ・グリーンカーテンの設置では冷房効果の向上が限定的であった。長期休業中の管理が困難であった。
	改善方針	【継続】 ・児童生徒と幼児としっかりと話し合い年間計画をたてていく必要がある。 ・生徒会主体のエコ活動を推進する。 ・子どもたちの主体的な取り組みや環境意識が高まるよう狙いをしっかりと考え学習する。
内部評価	最終評価	【意見等】・環境意識の高い北栄町らしく学習を継続し環境意識の高揚を図る。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|--------------------|------------------|
| A =目標を大幅に達成できた | D =目標を一部達成できなかった |
| B =目標をいくらか超えて達成できた | E =ほぼ全く達成できなかった |
| C =目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	4
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	鳥取県版環境管理システム(TEAS)登録		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 環境教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 学校が主体的、継続的に環境配慮活動を行い、児童生徒及び教員が環境保護への意識を高める。 ※ISO14001などと同じ「環境マネジメントシステム」(EMS)の鳥取県版 【概要】 「電気使用量を減らす」、「ごみの減量」などの取り組みにより、学校全体で環境をよりよくするための意識の高揚と実践を行う。		
事業の効果	【効果】 学校生活において節電・節水やごみの減量化に取り組むことで環境保護への意識を高揚する。		
具体的な取り組み	学校美化活動、節電、節水、不要用紙の回収・再生リサイクル、用紙の裏面利用、ごみの減量、エコキャップ回収など。 …環境委員会や教員が主体的に実施する。 ・認定：北条小(H17. 3)、北条中(H17. 3)、大栄中(H21. 1)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・日常や集団一斉での学校美化活動の実施。 ・エコキャップ回収 ・教室等の節電への取り組み。 ・バケツ使用による節水の取り組み。 ・不要用紙の回収、再利用リサイクル実施。
	成果・効果	・美化活動で学校環境を良好にできた。ごみの減量、節電、節水をとおして環境を大事にする心を育てることができた。
	課題	・日々の省エネ活動がどの程度環境保護につながっているかを実感させる工夫が必要。 ・給食の残菜の減量や身の回りの資源をより大切に作る心と実践が必要。
	改善方針	【継続して実施】 ・省エネ実践の成果を各種資料から可視化を図っていく。 ・環境資源の学習の場面を増やしていく。
内部評価	最終評価	【意見等】 具体的な数値目標を設定し取り組むことも必要。 ・主体的な環境学習や活動で実感することが必要。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	12
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	歴史探訪ウオークの実施		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	4 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催	2-9 6-5 6-6
事業の目的・概要	【目的】 町内の史跡・名勝・文化財などを徒歩で訪れ、町の成り立ちの歴史や文化に直接触れることで、「北栄町」への愛着・思い入れをさらに深めてもらう。 【概要】 町内の史跡・名勝・文化財などを徒歩でめぐり、それぞれのポイントで解説をおこなう。		
事業の効果	【効果】 身近な地域の歴史を知ることで「北栄町」への認識を新たにしてもらい、今まで以上に「我が町」の意識と愛着を持ってもらう。「我が町」の意識を高めることで、町の他の分野への参加も見込める。		
具体的な取り組み	身近にある歴史スポット(史跡・名勝など)をめぐるコース設定だが、これまで当たり前に見ていたもの(由良台場・六尾反射炉など)を具体的に取り上げ、目で見て手で触れて心で感じてもらえるようにする。 (検証は出来ないが、帰宅後、夕食や団らんの場で「今日はこんな話が聞けた」という話題になれば理想。) 目標参加人数:20名		

【最終評価】

事務局	事業実績	10月20日(日) てくてくウオーク事業と共催の形で「幕末の郷土探訪ウオーク」として開催。	
	成果・効果	参加者26名。由良台場築造150年記念事業と連動、町内の江戸時代以降の史跡等をめぐるコース設定。 荒天の中、参加者全員が完歩、説明にも耳を傾けてもらえ、築造の意義、誇れる歴史の発見、町への再認識の音が聞けた。	
	課題	実際に手で触れて・・・という部分に工夫が必要と感じた。 悪天候にせよ、参加者数をもっと増やしていくことが必要。	
	改善方針	ただ単に耳で聞く説明だけでなく、いろいろなものに触れて実際に感じてもらう工夫を盛り込む。 (町の歴史に実際触れることで、町に対して、親しみ、愛着、そして誇りを持っていただくための工夫)	
内部評価	最終評価	C	【意見等】 ・町内史跡を計画的にめぐる計画を検討する必要がある。 ・ウォーキングの町北栄との連携・統一も視野に入れ、「歩き方」「ウォーキング」の楽しみ方も考慮に入れたい。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	5
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	歴史民俗資料館展示事業		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 6-5
	具体的な目標	4 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催	
事業の目的・概要	【目的】 歴史民俗資料館の展示を通じて、北栄町の文化・自然・歴史に触れる機会を設ける。 【概要】 歴史民俗資料館での展示(常設:生田和孝陶芸作品 企画:年間6本 巡回展示館:由良宿など、歴史民俗資料館の資料を出張展示。) 資料収集・整理(鳥取県立公文書館との合同事業)		
事業の効果	【効果】 町内で活動する作家の作品や町の歴史・民俗資料などの展示を通じて、北栄町独自の文化の情報発信。		
具体的な取り組み	地元で活躍した(現在、活躍する)作家の展示。(前田寛治、増田英一、前田利三、生田和孝他) 地元の歴史を知る史料の展示。(砂丘開拓のあゆみ、埋蔵文化財など) 地元の自然を知る史料の展示。(鳥取県立博物館アウトリーチプログラム) 美術展入賞作品展など。 目標 入館者数:1000名 収集資料の整備・公開に向けての準備(県立公文書館との合同事業)		

【最終評価】

事務局	事業実績	企画展示の実施(郷土の作家たち、砂丘開拓のあゆみ、県立博物館アウトリーチプログラムなど) 入館者数 1,645名(平成26年1月現在) 収蔵資料の整理、収蔵資料の貸出 図書館での収蔵資料の展示(特に郷土史入門講座と連動させ、タイムリーな展示を実施)
	成果・効果	学校の資料利用が少しずつ増え、「こんなものはないですか?」という質問も増えてきたこともあり、資料の利用が定着してきた感がある。 県立公文書館と合同で収蔵資料の整理をおこなった。(来年度も継続) 郷土史入門講座受講者が関連資料に触れることで講座への理解がより深まり、図書の貸し出しなども含め広がりがある取り組みとなる。
	課題	来館者がどのようなものを望んでいるのか、精査していく必要がある。 小・中学生の来館・利用者増。
	改善方針	来館者のニーズを捉えるよう、アンケート等で情報収集を図る。
内部評価	最終評価	【意見等】図書館などの既存の事業との連携は、収蔵資料への関心を高め、魅力を再発見する機会を提供することにつながる。推進が望ましい。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	6
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	巡回展示館の実施		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 地域文化の鑑賞機会の提供	
事業の目的・概要	【目的】 北栄町の歴史や自然などを展示し、「北栄町」をしってもらう。 【概要】 夏休みなどの期間を利用して歴史民俗資料館収蔵資料を町内の施設などで展示する。		
事業の効果	【効果】 北栄町の歴史や自然などを展示し、「北栄町」をしってもらう。		
具体的な取り組み	夏休み期間に由良宿・遠藤本店の車庫を借り、歴史民俗資料館の収蔵資料を展示する。（北栄町を知る鍵となる砂丘地独特の風物などを中心に展示する。）		

【最終評価】

事務局	事業実績	7月末～8月末までの1ヶ月間、由良宿 遠藤本店の車庫を利用して、機織り機(高機)と耕製品、綿花と糸つむぎの道具を展示した。	
	成果・効果	歴史民俗資料館の資料を展示、現在の砂丘地農業の元となった「綿花」と耕についてミニ展示をおこなった。	
	課題	資料館の収蔵品だけでなく、観光・産業方面との連携(より多くの人に見てもらうための工夫)	
	改善方針	単に昔の道具だけでなく、北栄町の魅力を伝える要素を入れる。(農産物に関する展示など)	
内部評価	最終評価	【意見等】 夏休みのコナン関連イベントのルートが変わり、見ていただくための人の流れが少なくなった可能性があるため、来年度は展示場所の工夫を行う。	
	D		

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	7
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	地域子ども教室(子どもほくえい塾)の実施		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりの促進 【概要】 地域住民からボランティアの講師を募集し、様々な体験活動を実施		
事業の効果	【効果】 地域住民を講師とすることで地域の大人との交流が促進されるとともに、地域で活動することで地域に愛着をもつ子どもの育成につながる。 ボランティアに参加する方の地域活動への参加意欲が促され、地域の教育力の向上につながる。 子どもの居場所づくりにもなっている。		
具体的な取り組み	ボランティア(地域住民講師)の募集。 週末(土日)、長期休業日(夏休み等)に事業の実施(チラシを学校を通じて配布)。 ボランティアカードを配布し、自治会等でボランティアをした子どもにシールを配布(学校で表彰)。		

【最終評価】

事務局	事業実績	(H25. 4~12)実施回数 140回 参加人数 子ども 1118人 大人 511人 サポーター 503人
	成果・効果	子どもたちに様々な体験活動を提供することが出来た。 子どもから大人まで幅広い年齢層での活動・交流をととしてコミュニケーション能力の向上も期待できる。
	課題	ボランティアサポーターの固定化
	改善方針	新規のボランティアサポーターの開拓、事業を広報等を活用してPR
内部評価	最終評価	【意見等】・特になし
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

8

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

生涯学習課

事業名	中央公民館青少年対象講座			
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	6 地域の教育力の向上を目指す取り組み		
事業の目的・概要	【目的】 幅広い年代に多様な学習機会を提供するという公民館の役割を果たすため、これまでの生涯学習課で実施していた青少年地域活動事業をH25より公民館事業として実施する。 【概要】 工作教室、自然体験教室等によって、青少年の直接体験、仲間づくり、親子のふれあいなどを深める事業を実施する。			
事業の効果	【効果】 公民館を子どもの集まる場、地域の魅力を伝える場とするため、青少年を対象として事業を実施する。 また、指導者として、地元の人の協力いただくことによって、地域人材の活動の場を提供する。			
具体的な取り組み	* 親子木工教室 * 親子クッキング教室			

【最終評価】

事務局	事業実績	幅広い年代に多様な学習機会を提供し、「こどもの顔の見える公民館」をめざして実施。地域の指導者とともに活動する中で地域の魅力を伝える公民館の役割を果たすことができた。
	成果・効果	・地域の指導者の協力を得て実施する中で、地域の方との触れ合いの素晴らしさを伝えることができた。 ・自然体験の中で親子とともに身体を動かし、工夫し体感する喜びを味わう事業となった。
	課題	子ども対象の事業の日程決定が他の事業と重なり、参加者の確保が難しい
	改善方針	学校や事業年間計画との兼ね合い調整を十分に作る。
内部評価	最終評価	【意見等】よりたくさんの子ども、子育て家庭が関わることのできる事業として、周知を含めた見直しを図ること。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	9
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	生涯学習課
事業名	国史跡由良台場150年事業		
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 2-4
	具体的な目標	4 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催	
事業の目的・概要	【目的】 国史跡由良台場の築造150年の節目にあたり、由良台場をさらに知ってもらい、身近に感じられるようなイベントをおこなうと同時に北栄町にこんなものがある、という情報発信を目的とする。 【概要】 「由良台場大掃除大会(仮称)」の開催 「由良台場フォトコンテスト」の開催		
事業の効果	【効果】 国史跡として地元の貴重な財産である由良台場をさらに知ってもらうことで、台場公園周辺の目玉の一つとして情報発信の一助とする。		
具体的な取り組み	「由良台場大掃除大会(仮称)」……台場の現状をリアルに感じてもらうと共に、地元の手で美しく、という文化財保護の啓発もおこなう。(地域の自立活性化事業で紙芝居製作が実施されるのでそちらの披露ができればおこないたい。)参加目標人数:20名 「由良台場フォトコンテスト」……由良台場を題材にしたフォトコンテストの実施。目標出品数20点		

【最終評価】

事務局	事業実績	10月5日 郷土史入門(図書館事業と共催)に鳥取県立博物館学芸員による講座を開催。 10月20日「幕末の郷土探訪ウオーク」(てくてくウオークと共催)を開催、参加者26名。同時に由良台場の清掃活動も実施。ウオークの内容として「由良台場清掃ボランティア」を開催、ゴミ拾いを行った。併せて道の駅登録20周年事業とコラボすることで台場の知名度を上げる取り組みをした。 11月18日よりフォトコンテストの作品募集を開始。
	成果・効果	郷土史入門の講座とウォーキングイベントで「話を聞いて現地を見る」という形を取った。 企画政策課道の駅キャンペーンと連動させ、イベントをパッケージ化することで住民だけでなく、観光客への周知効果があった。
	課題	150年で完了、というわけではなく、今後も「由良台場」など郷土の歴史の証の情報発信が必要。
	改善方針	事業そのものは終わるが、今後も継続して情報発信を継続する。
内部評価		最終評価 C 【意見等】 全国に誇れる史跡台場を文化資産及び観光資源として、今後も効果的なPRを続ける。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	13
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	町学校教育研究協議会		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 4-2
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実	
事業の目的・概要	【目的】 町内こども園・保育所(園)・小学校・中学校が相提携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育て、本町教育の充実進展に努め、併せて関係諸団体との緊密な連携を図る。 【概要】 園(所)、小・中学校が連携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てる具体的な活動を推進する。		
事業の効果	【効果】 ・園(所)、小・中学校が連携することが、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てることにつながる。		
具体的な取り組み	専門部会を組織し、活動を進める。 学習指導部、生徒指導部、人権教育部、特別支援教育部、健康教育部、読書推進部、就学前教育部、学校事務部		

【最終評価】

事務局	事業実績	・4月22日(月)総会 会場 北条小学校 活動方針等協議 ・7月29日(月)全体研修会 講演 講師 小栗正幸氏(宇部フロンティア大学臨床教授) ・各部会の活動を実施 ・理事会 4月5日、1月6日	
	成果・効果	幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てるため、園(所)、小・中学校が連携を図った。	
	課題	特になし	
	改善方針	取組のさらなる充実を図る	
内部評価	最終評価	C	
		【意見等】 町内の学校関係施設が校種、校区を超えて連携している。	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

			整理番号	14
			担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】				
事業名	レインボープラン(大栄小・中・中央育英高校)			
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども		その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実		
事業の目的・概要	【目的】 同じ丘に大栄小学校・大栄中学校・鳥取中央育英高等学校があるという立地環境を活かし、小中高等学校が連携する中で、一人ひとりの児童生徒の発達を上級学校へと繋げると共に、進路意識の向上及び教職員の他校種理解を深めることを通して、学校が抱える共通の諸課題(学校不応への対応、教科指導の一貫性、人権教育・特別支援教育の充実等)の解決策を見出す。 【概要】 ・児童生徒の交流 ・教職員の交流			
事業の効果	【効果】 ・児童生徒の進路意識の向上につながる。 ・教職員の他校種理解を深めることができる。			
具体的な取り組み	・児童生徒の交流(吹奏楽、水泳等) ・大栄中学校3年生が鳥取中央育英高校で体験授業を実施 ・互いの授業研究会への参加			

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学生 ボードクライミング・水球交流(高校) ・小学校プール開き 高校生の模範水泳 ・中学生の読み聞かせ(小学校) ・授業研究会
	成果・効果	・児童生徒の進路意識の向上につながる体験ができた。 ・教職員の他校種理解を深めることができた。
	課題	特になし
	改善方針	交流の目的を明確にし、取組のさらなる充実を図る。
内部評価		最終評価 C 【意見等】 -事業を継続することにより必要な効果を獲得し続けることができる。職員はより高度な指導を継続すること。 ・計画に基づいて実施することができている。 ・広報活動もできている。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	15
【評価事務事業：当初確認事項】			担当課名	教育総務課
事業名	ドリームプロジェクトX(北条小・中)			
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども		その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実		
事業の目的・概要	【目的】 9年間を見通した連続性のある小中連携教育の推進 【概要】 学力向上、交流活動、小中の接続の3つのプロジェクトを中心に活動を推進する。			
事業の効果	【効果】 教育目標の一貫性、子どもの理解の一貫性、学習指導の継続性、学習内容の系統性を視点として、独自性と連続性を踏まえた9年間の一貫した教育の推進につながる。			
具体的な取り組み	○プロジェクトまなび(学力向上) ・小中合同授業研究会 ・小中合同教科・領域部会 ○プロジェクトきずな(交流活動) ・交流活動、行事交流 ○プロジェクトくらし(小中の接続) ・ノーメディアチャレンジの実施			

【最終評価】

事務局	事業実績	○プロジェクトまなび(学力向上) ・小中合同授業研究会 ・小中合同教科・領域部会 ○プロジェクトきずな(交流活動) ・交流活動、行事交流 ○プロジェクトくらし(小中の接続) ・ノーメディアチャレンジの実施
	成果・効果	教育目標の一貫性、子どもの理解の一貫性、学習指導の継続性、学習内容の系統性を視点として、独自性と連続性を踏まえた9年間の一貫した教育の推進を図った。
	課題	特になし
	改善方針	取組のさらなる充実を図る。
内部評価		最終評価 【意見等】・事業を継続することにより必要な効果を獲得し続けることができる。職員はより高度な指導を継続すること。 C ・計画に基づいて実施できている。 ・本年度、教科部会が充実していた。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

内部 評価用

		整理番号	10
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	全教育課程で実施		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 道徳的实践力の向上 啓発活動	
事業の目的・概要	【目的】 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子どもを育成する 【概要】 全教育活動において道徳的实践力の向上を図る		
事業の効果	【効果】 全教育課程で実施することで、仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子どもの育成につながる		
具体的な取り組み	全体計画を作成し、全教育課程で実施する		

【最終評価】

事務局	事業実績	全体計画を作成し、全教育課程で実施した
	成果・効果	全教育課程で実施することで、仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子どもの育成につなげた。
	課題	特になし
	改善方針	
内部評価		最終評価 C 【意見等】年間を通しての取組を継続していくことが大切である

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	16
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	中学校での心の教室相談事業		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 生徒たちの抱えている悩みやストレス等を軽減するため、各中学校に生徒が気軽に相談でき、安心して学校生活を送れる環境整備として「心の教室」を設置する。 【概要】 生徒たちが学校や家庭など内容を問わず抱えている悩みを心の教室相談員（町非常勤職員）が「心の教室」で聞き取り、生徒が安心して学校生活が送れるよう環境整備する。		
事業の効果	【効果】 ・悩み相談の場を設けることで生徒が安心して学校に通学できる環境を整備する。 ・生徒のいじめや家庭環境、学習（高校進学）への取り組みなど内容を問わず悩みを聞き取ること でいじめや不登校などの早期発見・対策につながる。 ・教員との情報共有ができ、教員は早期対応、学級経営に役立てることができる。		
具体的な取り組み	・「心の教室」開設日 【北条中】 毎週 月・木 8:30～12:30 火・金 13:00～17:00 ※スクールカウンセラー：毎週水曜日 【大栄中】 毎週 月・火・水・金 10:00～14:00 ※スクールカウンセラー：毎週水曜日		

【最終評価】

事務局	事業実績	・中学校に各1名配置し、相談活動を実施 ・昼休憩時に生徒が相談室を訪れ、相談員と会話をするなどして過ごす
	成果・効果	・悩み相談の場を設けることで生徒が安心して学校に通学できる環境を整備した。 ・教員との情報共有ができた。
	課題	相談回数だけでなく、内容ごとの回数も記録し、活用状況を把握する必要がある。
	改善方針	本年度より、内容ごとの回数も記録して活用状況を把握に努める。
内部評価	最終評価	C 【意見等】・相談件数としては少ないが、昼休憩等に生徒との交流は盛んに行われている。 ・今後も計画の成果が得られるように種々の計画を立案すること。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	17
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	いじめ対策のためのQ-U実施		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 アンケートを実施し、学級経営のための有効な資料を活用して、いじめや不登校などの問題行動の予防と対策に役立てる。 【概要】 アンケート結果を担任だけでなく、学年担当の複数の教員で分析して、学級経営等に役立てる。		
事業の効果	【効果】 ・子どもの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を把握できる。 ・教員が学級及び児童生徒の状況を把握し、子どもが豊かに育ち・まなぶための環境づくりや児童生徒指導に役立てる。		
具体的な取り組み	・1学期に1回目の調査を実施し、学級集団の状況を把握して指導にあたる。 ・2学期に2回目の調査を実施し、学級集団の状況やその変化を把握して、指導にあたる。 ・研修会を実施し、活用方法について学ぶ。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・1学期と2学期にそれぞれ1回実施し、分析を指導に活かした。
	成果・効果	・子どもの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を把握できた。 ・教員が学級及び児童生徒の状況を把握し、子どもが豊かに育ち・まなぶための環境づくりや児童生徒指導に役立てることができた。
	課題	推移の把握を十分に行う必要がある。
	改善方針	第2回の結果を分析するときに、第1回からの推移も分析し、取組のさらなる充実を図る。
内部評価	最終評価	C 【意見等】・研修会も各学校1回実施され、活用されている。 ・いじめの未然防止及び早期発見・早期対応ができたことにより生徒はどうなったのか、調査の実施した後の対策の改善に努める必要がある。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	18
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	いじめに関する調査		
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 いじめの実態を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てる。 【概要】 調査方法 ・年2回 ・家に持ち帰って記入(小1、2は除く) ・無記名 ・同じ様式の調査票		
事業の効果	【効果】 ・いじめの実態を把握することで、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てることができる。		
具体的な取り組み	実施時期: 5月下旬、10月下旬 対象: 全児童生徒 方法: 小学校1、2年 学校で調査用紙に記入(無記名)、提出 小学校3年～中学校3年 調査用紙を持ち帰り、家で記入(無記名)、用紙を封筒に入れて担任に提出 活用: 調査結果を全職員で把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等を図る。		

【最終評価】

事務局	事業実績	5月と11月に調査を実施し、いじめの早期発見、予防に役立てた。	
	成果・効果	・いじめの実態を把握することで、今後のいじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てた。	
	課題	・無記名の調査なので、記入者から直接、話を聞くことができない。 ・アンケート調査だけでは把握はできない。	
	改善方針	・他の方法での実態把握を合わせて実施していく。(観察、教育相談、生活記録ノート)	
内部評価		最終評価	【意見等】 いじめの未然防止、早期発見・早期対応等の指導に役立てるという目標は達成できている。 ・児童生徒の生活はどのようになったのか整理把握する必要がある。
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	19
【評価事務事業：当初確認事項】			担当課名	教育総務課
事業名	児童生徒交流事業(滋賀県湖南市との交流)			
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 2-1	
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実		
事業の目的・概要	【目的】 友好交流協定を締結している滋賀県湖南市との学校レベルでの相互交流を「第3回湖南市いじめをなくそうサミット」を通じて行い、児童生徒の豊かな育ち・学びに活かす。また、今後の児童生徒交流事業を促進する。 【概要】 湖南市が主催する「第3回いじめをなくそうサミット」に参加し、ワークショップ・アピール文作成-全体発表を通じて交流する。交流の結果を学校に持ち帰り、校内発表を行うなど情報共有を行う。			
事業の効果	【効果】 ・児童生徒及び教員が、いじめをテーマとした「話し合い-まとめ-発表」による交流体験を行い、いじめに向き合うとともに学校内でのいじめ対策活動に活かすことができる。 ・児童生徒は、都市部の児童生徒との交流を通じて社会性の育成ができる。 ・教員は、学校における学習活動や指導に役立てることができる。 ・町は、湖南市との友好交流の幅を広げ、相互連携や子どもたちの育ちに還元できる。			
具体的な取り組み	・実施日：平成25年8月22日(木曜日) 午後、 行程：8月21日(水曜日)～22日(木曜日)1泊2日 ・参加者：北条小 6学年児童3名、教員1名、大栄小 6学年児童3名、教員1名 北条中 3学年生徒2名、教員1名、大栄中 3学年生徒2名、教員1名 教育委員会 職員1名 総勢 15名 ・内容：テーマ「いじめ」 湖南市指導主事講演－ワークショップ・アピール文作成－全体発表－各学校へ持ち帰り			

【最終評価】

事務局	事業実績	・平成25年8月21日(水)～22日(木)：滋賀県湖南市訪問 ・平成25年8月22日(木)：「第3回湖南市いじめをなくそうサミット」に児童生徒・教員が参加・交流 ・平成25年9月4日(水)：大栄小全校発表、平成25年9月18日(水)北条小全校発表、平成25年9月20日(金)大栄中生徒会企画：いじめをなくそうサミット参加報告会(全校生徒対象意見交換) ・平成25年12月1日(日)北条町じんけんフェスタ2013
	成果・効果	・「いじめ」への認識を深め、「いじめ」をなくするための意見交換、決意・願いをまとめ発表し、湖南市の関係者を含め情報を共有した。また、学校に持ち帰り、全校発表を通じていじめ撲滅の情報共有を図った。 ・参加した町内小・中学校児童生徒・教員の相互交流が図れた。 ・町民対象の「北条町じんけんフェスタ」において、大栄小参加者が活動状況を報告し、町民と情報共有した。
	課題	・交流が「サミット」の分科会内の参加児童と限定的であった。 ・湖南市と町内の児童生徒とが学校教育をテーマに継続して交流していくことが可能かどうか。
	改善方針	●「内容を見直して継続」 ・生涯学習などのテーマを取り入れ児童生徒の交流を継続する。 ・平成27年度以降町独自で「いじめをなくする」ための取り組み。 ・「リーダー育成」を見据えて事業を展開する。 ・町イベント「じんけんフェスタ」での発表などを通じて、他校児童生徒や町民と情報を共有する。
内部評価		最終評価 B 【意見等】 ・湖南市児童生徒及び教員と「いじめをなくすること」をテーマとした交流と学習ができた。 ・各学校での情報共有と町民への情報発信をすることができた。 ・北条町内4校の児童生徒及び教員の交流もできた。 ・北条町以外での「いじめ」対策等を研修し町内にその情報を広めたい。その情報を基に本超独自の対策を研究したい。

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号	11
担当課名	生涯学習課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	PTA活動費(研修会)補助金			
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	5 PTA活動の充実		
事業の目的・概要	【目的】 PTA活動に要する経費の一部を助成することにより、PTA相互の連携を図り、教育の振興、会員の研修に努め、児童生徒の健全な育成に資することを目的とする。			
	【概要】 PTA活動のうち講演会、研修会等の講師等謝礼について助成する。 婦人会活動のうち補助対象事業の活動経費2分の1以内について助成する。			
事業の効果	【効果】 PTAとして自主的で自立した学習活動、青少年育成、会員研修等の活動を行うことにより、学校とともに子どもたちを育むという意識を喚起する。 婦人会会員相互の連携と親睦を図る。知識と教養を深め、地域社会の福祉の増進、女性の自立と社会参加の促進を図り、男女共同参画社会の形成に資する。			
具体的な取り組み	小中学校PTA活動のうち講演会、研修会等の講師等謝礼について助成する。 婦人会活動のうち補助対象事業の活動経費2分の1以内について助成する。			

【最終評価】

事務局	事業実績	助成実績 小学校PTA のべ3回 20,000円 中学校PTA 1回 15,000円 婦人会 130,000円
	成果・効果	PTAとして自主的で自立した学習活動、青少年育成、会員研修等の活動を行うことにより、学校とともに子どもたちを育むという意識を喚起した。 婦人会会員相互の連携と親睦を図る。知識と教養を深め、地域社会の福祉の増進、女性の自立と社会参加の促進を図り、男女共同参画社会の形成に資することができた。
	課題	助成対象PTAを増やし、学習活動と組織の育成支援を広げる。
	改善方針	こども園PTAを助成対象とする。
内部評価		最終評価 【意見等】・特になし C

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	12
【評価事務事業：当初確認事項】			担当課名	生涯学習課
事業名	青少年育成北栄町民会議交付金事業（街頭補導・あいさつ運動の推進）			
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども		その他共通ビジョン項目 1－8 2－7
	具体的な目標	6 家庭教育の充実と青少年の健全育成		
事業の目的・概要	【目的】 青少年問題の持つ重要性を認識し、広く町民の総意と自主活動を結集し、次代を担う青少年の健全な育成を図る。 【概要】 各団体の連携、情報の共有化。社会環境の浄化活動。青少年の健全育成を図るための広報、啓発活動。			
事業の効果	【効果】 各団体の連携、情報の共有化、社会環境の浄化活動により、大人や親が青少年を見守る環境を整え、地域ぐるみで青少年の健全育成を図る。			
具体的な取り組み	・あいさつ運動（年2回） ・あいさつ通りモデル自治会募集 ・マナーアップさわやか運動（年2回） ・見守りパトロール（夏休み・冬休み） ・青少年育成連絡会（年2回） ・健全育成の広報啓発 ・子ども会リーダー研修検討 ・青少年育成鳥取県民会議との連携 ・倉吉地区少年補導センターとの連携			

【最終評価】

事務局	事業実績	・あいさつ運動（年2回） ・あいさつ通りモデル自治会募集 ・マナーアップさわやか運動（年2回） ・見守りパトロール（夏休み6回・冬休み2回） ・青少年育成連絡会（年2回） ・子ども会リーダー研修検討 ・青少年育成鳥取県民会議との連携 ・倉吉地区少年補導センターとの連携 ・告知放送による子どもの声によるあいさつ運動の促進
	成果・効果	各団体の連携、情報の共有化、社会環境の浄化活動により、大人や親が青少年を見守る環境を整え、地域ぐるみで青少年の健全育成を図った。 朝、告知放送で子どもの元気な声のあいさつが流れることで、放送を楽しみにする方も増え、あいさつの大切さが広く浸透し、啓発効果があった。
	課題	①あいさつ通りモデル自治会の認定数増加 ②既設啓発看板老朽化による修繕
	改善方針	①自治会長会及び既に認定しているモデル自治会からの働きかけ ②青少年を育む標語・図案を募集し看板により啓発する
内部評価		最終評価 B 【意見等】 様々な形で啓発に取り組むこと、自主性に基づいた取り組みを進めること、子どもを主役にした取り組みを進めることで、相乗効果が生まれている。より効果的に住民主体の取り組みを進めることに期待。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	20																																								
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課																																								
事業名	少人数学級の推進																																										
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目																																								
	具体的な目標	1 学校教育の充実	4-3 4-5																																								
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図る。 【概要】 小・中学校の学級編成を国・県の基準を上回る(一部)町独自の基準で取り組み、小学校1年から中学校3年までの9年間をきめ細かく丁寧な学習指導を行う。																																										
事業の効果	【効果】 少人数学級編成をすることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることができる。そのことにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図ることができる。																																										
具体的な取り組み	・次の基準(町基準)で学級編成を実施する。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>小1</td> <td>小2</td> <td>小3</td> <td>小4</td> <td>小5</td> <td>小6</td> <td>中1</td> <td>中2</td> <td>中3</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>35</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>県基準</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>33</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>町基準</td> <td></td> <td></td> <td>33</td> <td>33</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※県基準：小1・小2・中1 県費、その他は200万円協力金 町基準：500万円協力金				小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	国	35	40	40	40	40	40	40	40	40	県基準	30	30	35	35	35	35	33	35	35	町基準			33	33					
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3																																		
国	35	40	40	40	40	40	40	40	40																																		
県基準	30	30	35	35	35	35	33	35	35																																		
町基準			33	33																																							

【最終評価】

事務局	事業実績	北条小 1年 2学級→3学級 3年 2学級→3学級 4年 2学級→3学級 大栄小 3年 2学級→3学級 北条中 3年 2学級→3学級 大栄中 1年 2学級→3学級 2年 2学級→3学級
	成果・効果	少人数学級編成をすることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させ、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図った。
	課題	特になし
	改善方針	
内部評価	最終評価	【意見等】
	C	・児童生徒の基本的な生活習慣を確立することができた。 ・基礎学力の定着を図ることができた。事業を継続する必要がある。 ・児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることに役立っている。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

●平成25年度教育行政評価 事業評価シート

外・内部 評価用

		整理番号	21
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	学びと指導の創造事業(北条小・中)		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目 3-1
	具体的な目標	1 学校教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】・児童生徒の学習意欲の向上及び活用する力の向上 ・小中連携を生かした教師の授業力の向上 【概要】協同学習と小中連携を活かした取り組みを進める。		
事業の効果	【効果】協同学習と小中連携を活かした取り組みを進めることで、児童生徒の学習意欲の向上、活用する力の向上及び教師の授業力の向上につながる。		
具体的な取り組み	・協同学習の考え方を取り入れ、小集団学習を活用しながら、互いに深め合い高め合う場面を意図的に設定した授業をする。 ・学年初めのNRT、学年末のCRTの活用項目を継続して分析し、取り組みの効果の有無を見る。 ・一人一研究授業を実施するため、全体の研究授業だけではなく学年単位の研究授業を設ける。 ・小中連携の授業を増やす。そのために、例年実施している全体会だけではなく教科部会も実施し、まずは教員同士の交流を深める。(夏休み中に実施)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・合同授業研究会や合同教科部会を実施 ・全県への公開授業研究会 10月16日(水)北条中学校
	成果・効果	協同学習と小中連携を活かした取り組みを進めることで、児童生徒の学習意欲の向上、活用する力の向上及び教師の授業力の向上につながった。
	課題	特になし
	改善方針	本事業は県事業であり、平成24・25年度に実施した。次年度は事業として実施しないが、共同学習の取り組みを継続し、児童生徒の学習意欲の向上、活用する力の向上及び教師の授業力の向上につなげていく。
内部評価	最終評価	【意見等】・児童生徒の学習意欲の向上ができ、教員の授業力の向上もできた。教師力が向上した。 ・児童生徒及び教師が得ることのできた効果を持続するためにこの事業を継続する必要がある。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	22
【評価事務事業：当初確認事項】			担当課名	教育総務課
事業名	ICT教育活動支援員の配置			
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育		その他共通ビジョン項目 4－4
	具体的な目標	1 学校教育の充実		
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒の情報活用能力の向上や学習効果の高い情報機器を活用した授業を推進し、児童生徒の学力の向上を図る。また、ホームページの更新など学校の情報提供を行い開かれた学校を推進する。 【概要】 ・学習教材の作成や授業における情報機器の操作補助を行う。 ・学校情報の発信のため、ホームページの更新などを行う。			
事業の効果	【効果】 ・児童生徒の情報活用能力の向上を図る。 ・情報機器を活用した授業を推進し児童生徒の学力の向上を図る。 ・学習教材の作成や情報機器の操作補助を行い教員の負担軽減し、教員の児童生徒の関わりを増加する。 ・ホームページの更新により開かれた学校づくりを推進する。			
具体的な取り組み	・各小・中学校 1名(合計4名)配置 ※ICT教育活動支援員(臨時職員):週5日 7時間45分勤務 ・年間を見通した学習教材の作成補助を行う。 ・情報機器(電子黒板やプロジェクターなど)を活用した授業を推進するため、機器の操作補助や教職員に機器の操作説明を行う。 ・情報機器の点検・改善を随時行う。 ・学校ホームページの更新を行い、対外的な情報公開を行う。			

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学校2校、中学校2校 各校1名(合計4名)配置済み ・各授業におけるICT機器を使用した学習教材の作成補助の実施 ・学校内ICT機器の点検・管理及び操作説明・補助の実施 ・学校ホームページの更新作業実施
	成果・効果	・教員の多忙感の解消及びICT機器による視覚等を活用したこと学習への関心を向上を図り、児童生徒の学力の向上に取り組んだ。 ・学校ホームページへ随時更新することにより開かれた学校を推進し、保護者や町民に児童生徒の学校での様子や学校の取り組みを情報共有することができた。
	課題	・人件費に対し、子どもたちの学習への還元や学校運営の取り組み、教員の負担軽減にどれだけの効果があるのか検証する必要がある。 ・H25までは国の事業を活用していたが、H26以降町費での雇用となるため、経費と効果の検証が必要である。
	改善方針	【引き続き継続】 ・年間を通して、ICT機器を活用した教科及び授業の状況を調査把握し、効果の検証を図る。 ・学校ホームページの更新状況を確認するとともに、開かれた学校の推進を図る。 ・ICT機器に精通した者の採用を図る。
内部評価		最終評価 C 【意見等】 ・今後将来的に進んでいくと考えられる「教育の情報化」に対応していく必要がある。 ・教員が授業の指導に専念できるよう、また、学習指導の有効な手段として積極的にICT機器を使用していく必要があり、引き続き補佐員の配置が必要である。 ・開かれた学校を推進するため、積極的なホームページの活用が必要であり、随時、情報更新を行う必要がある。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	13
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	講師招聘事業の実施		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 教職員の資質・指導力の充実	
事業の目的・概要	【目的】 校内授業研究会に外部から学識経験者を招聘し、各学校の研究推進や当日の公開授業についてアドバイスをもらい、それをもとに授業力の向上を目指す。 【概要】 校内授業研究会に外部から学識経験者を招聘して指導助言をもらい、実践に活かす。		
事業の効果	【効果】 ・授業研究会の内容がより深まったり、授業研究の最先端の情報を知ったりすることができる。		
具体的な取り組み	外部から学識経験者を招聘して校内授業研究会を実施する。 北条小学校 島根大学 富安講師 大栄小学校 鳥取大学 矢部副学長 大栄中学校 講師未定		

【最終評価】

事務局	事業実績	外部から学識経験者を招聘して校内授業研究会を実施した。 北条小学校 島根大学 富安講師 大栄小学校 鳥取大学 矢部副学長	
	成果・効果	校内授業研究会に外部から学識経験者を招聘して指導助言をもらい、実践に活かした。	
	課題	実施時期が遅い学校があった。	
	改善方針	計画を早く立て、実践するようにする。	
内部評価		最終評価	【意見等】 外部から講師を招聘することで、授業研究会がより効果的にできた。
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	14
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	CRT検査等による状況把握・分析の実施		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 教職員の資質・指導力の充実	
事業の目的・概要	【目的】 CRT検査等を利用して、児童生徒の状況把握・分析を行い、教職員の指導力の向上と児童生徒の基礎基本の定着を図る。 【概要】 CRT検査等を行い、その分析を指導に活かす。		
事業の効果	【効果】 ・CRT検査等の分析をすることで、児童生徒の状況が把握でき、指導のポイントが明確になり、児童生徒の基礎基本の定着につなげることができる。		
具体的な取り組み	小学校 ・NRT検査を1月に実施し、分析をする。 中学校 ・CRT検査を1月に実施し、分析をする。		

【最終評価】

事務局	事業実績	小学校 ・NRT検査を1月に実施し、分析をする。 中学校 ・CRT検査を1月に実施し、分析をする。
	成果・効果	・CRT検査等の分析をすることで、児童生徒の状況が把握でき、指導のポイントが明確になり、児童生徒の基礎基本の定着につなげることができる。
	課題	
	改善方針	
内部評価	最終評価	【意見等】1年間の学習の振り返りに用いることができた。
	C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

15

【評価事務事業：当初確認事項】

担当課名

教育総務課

事業名	全国学力・学習状況調査・NRT検査による学力状況把握・分析の実施		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 基礎基本の定着	
事業の目的・概要	【目的】 全国学力・学習状況調査・NRT検査を利用して、児童生徒の学力状況把握・分析を行い、児童生徒の基礎基本の定着を図る。 【概要】 全国学力・学習状況調査・NRT検査を行い、その分析を指導に活かす。		
事業の効果	【効果】 ・全国学力・学習状況調査・NRT検査の分析をすることで、児童生徒の状況が把握でき、指導のポイントが明確になり、児童生徒の基礎基本の定着につなげることができる。		
具体的な取り組み	小学校 ・全国学力・学習状況調査を実施し、分析をする。 ・NRT検査を1月に実施し、分析をする。 中学校 ・全国学力・学習状況調査を実施し、分析をする。 ・NRT検査を4月に実施し、分析をする。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・小・中学校において、全国学力・学習状況調査を実施して、分析を指導に活かした。 ・中学校において、NRT検査(4月)を実施し、分析を指導に活かした。
	成果・効果	全国学力・学習状況調査・NRT検査の分析をし、児童生徒の状況が把握でき、指導のポイントが明確になり、児童生徒の基礎基本の定着につなげる取り組みができた。
	課題	分析をより効果的に活かすこと
	改善方針	分析に多くの教員が関わり、工夫や改善を進める
内部評価	最終評価	【意見等】 全国学力・学習状況調査、NRT検査を実施し、児童生徒の学力状況・生活状況が把握できた。これを分析し、課題を洗い出し次年度に向けた対策の検討が出来た。
	B	

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	16
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	問題データベースの導入		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 基礎基本の定着	
事業の目的・概要	【目的】 個や目的に応じた問題を用いて、児童生徒の基礎基本の定着を図ったり、意欲の向上を図ったりする。 【概要】 問題データベースからプリントを作成して、授業や家庭学習に用いる。		
事業の効果	【効果】 個や目的に応じた問題を用いることで、児童生徒の基礎基本の定着を図ったり、意欲の向上を図ったりすることにつながる。		
具体的な取り組み	・問題データベース 各学校1教科 北条小学校 国語 大栄小学校 算数 北条中学校 数学 大栄中学校 国語 ・問題データベースからプリントを作成して、授業や家庭学習に用いる。		

【最終評価】

事務局	事業実績	問題データベースからプリントを作成して、授業や家庭学習に用いた。
	成果・効果	個や目的に応じた問題を用いることで、児童生徒の基礎基本の定着を図ったり、意欲の向上を図ったりすることにつなげた。
	課題	活用状況にばらつきがあった。 教科書の出版社と問題データベースの出版社が違い、使いづらい面があった。
	改善方針	平成26年度は、町教育委員会が予算計上して使用することはない。 他の教材を活用して、授業や家庭学習の充実を図る。
内部評価	最終評価	C 【意見等】 個や目的に応じた問題を用いることで、児童生徒の基礎基本の定着を図ったり、意欲の向上を図ったりすることができた。

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号	17
担当課名	教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	「家庭学習手引き」の作成・配布		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目 1ー4 3ー6
	具体的な目標	3 基礎基本の定着	
事業の目的・概要	【目的】「家庭学習の手引き」を作成・配布して、家庭学習の習慣化を図る。 【概要】「家庭学習の手引き」を活用して、家庭学習の習慣化を図る。		
事業の効果	【効果】「家庭学習の手引き」を活用することで、家庭学習への意欲向上や実践力向上を図り、基礎基本の定着につなげる。		
具体的な取り組み	・「家庭学習の手引き」を作成・配布する。 ・「家庭学習の手引き」を用いて指導する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	「家庭学習の手引き」を作成・配布 「家庭学習の手引き」を用いて指導	
	成果・効果	「家庭学習の手引き」を活用することで、家庭学習への意欲向上や実践力向上を図り、基礎基本の定着につなげた。	
	課題	大栄小学校で新一年に配布してきたものが、今年度でなくなる。	
	改善方針	大栄中学校区で、平成26年度に再度、作成する。	
内部評価		最終評価	【意見等】「家庭学習の手引き」を活用することで、家庭学習への意欲向上や実践力向上を図った。
		C	

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	23
【評価事務事業：当初確認事項】		担当課名	教育総務課
事業名	大栄小「まなびの教室」の設置		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 個に応じた指導の育成	
事業の目的・概要	【目的】 発達障がいのある児童、またはその疑いのある児童の学習や生活におけるつまずきや困り感を軽減するために、一人一人に合わせた指導を行う。 【概要】 大栄小学校に、通級指導教員を1名置く。 通常は、在籍している学級で学習し、週に1～2回程度「まなびの教室」に出かけて学習する。		
事業の効果	【効果】 自分に合った学び方や生活の仕方、友達とのかかわり方を学ぶことによって、自分に自信が付き、楽しく学校生活を送ることができる。		
具体的な取り組み	通級指導担当教員は、次のことを行う。 ・一人一人の児童にあわせた指導。 ・在籍学級担任と連携。(在籍学級での様子の観察及び在籍学級における配慮への助言)。 ・保護者への支援。 北栄町教育委員会は、通級指導委員会を設置し、通級指導教室の円滑な運営を図るとともに、指導のより一層の充実を図る。 ・入退級の審査 ・事例検討		

【最終評価】

事務局	事業実績	・開設：平成25年6月1日 ・対象：町内小学校の自閉症・情緒障がい・学習障がい等のある(疑い可)児童 ・内容：障がいによる学習・生活の困難改善・克服のため週1、2回程度の指導、保護者支援 ・指導教員1名配置	
	成果・効果	一人一人にあわせた指導を行うことによって、子どもたちは「できた」「わかった」喜びを味わい、「こうすればできる」手ごたえをつかむことができつつある。また、通級指導教員が担任と連携することにより、学級での指導・支援に役立てられている。他校通級の児童には、保護者への支援も十分にできた。	
	課題	途中入級の児童が増え、教材を作成する時間や教育相談のための時間等の確保が難しくなってきた。さまざまな困り感を持っている子どもたちが落ち着いて学ぶための、机・椅子等備品が不足している。また、一人一人に合わせた教材を作成するために参考となる書籍等が足りない。	
	改善方針	年度当初時間割を組むときに、途中入級の児童数を想定し、工夫して組んでいく。通級指導委員会で、通級による指導の必要性や優先順位などをしっかり審議する。必要な備品教材等は予算化する。	
内部評価	最終評価	C	【意見等】 一人一人にあわせた指導を行うことによって、子どもたちは「できた」「わかった」喜びを味わい、「こうすればできる」手ごたえをつかむことができつつある。 ・通級指導教員が担任と連携することにより、学級での指導・支援に役立てられている。他校通級の児童には、保護者への支援も十分にできた。事業を継続していく必要がある。

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。